

Dr. マツキ・ミヤザキ通り

インドの世界遺産「タージ・マハール」の上品で美しく、その類稀なる高貴な姿は非の打ち所がない。いくつかの道のりのうち、最も入場者が多いゲートは東門と呼ばれている。生憎東門の前は狭い T 字路になっていて交通渋滞が激しく車の乗り入れが禁止されている。バスでやってきた観光客は、近くのバス・ターミナルで一旦観光用トロリー車に乗り換えた後、最後の 500mほどを歩かなければならない。この幅広い歩行者天国道路には牛車、自転車、歩行者らが満ち溢れ、道端には露天商や物乞いがひしめいている。

嬉しいことに、この世界遺産へのメイン・ストリートに、何と日本人の名前が冠せられているのである。その名を「マツキ・ミヤザキ博士通り」といい、石版に彫られた 1.5m×2mほどの大きな道標が堂々と歩道上に設置され、観光客が立ち止まっては食い入るように見つめている。

しかし、その道路名はガイドブックにはなく、日本人の間ではまったく知られていない。

尋ねてみると「マツキ・ミヤザキ博士」は、インド・アグラ近郊にライ病院を建ててインドのライ病(ハンセン病)撲滅と、ライ病患者治療のために献身的な医療活動に取り組み、広くインド人から慕われ尊敬を集めていたお医者さんだったという。因みに近くのインド人親子に聞いてみたら、「マツキ・ミヤザキ博士」のことは当然のように承知していた。

これだけ世界的に知られる観光地で、尊敬されている誇るべき日本人が過去におられたことが、日本ではほとんど知られていないのはなぜだろうか。インターネットや百科事典で調べてみても、ついぞ頼りになる情報は得られなかった。結局日本人は自分にとって興味のあることしか念頭にはないということになる。日本では、世界で活躍するイチローや石川遼は知られていても、外国で貧民のために献身的な医療活動に励む医師なぞ眼中になく、まったく関心を持たれていないのである。ちょっと気がかりな話である。

白鳥(白衣の医師)は 悲しからずや インドの青、日本の青にも染まず ただよう

(近藤)